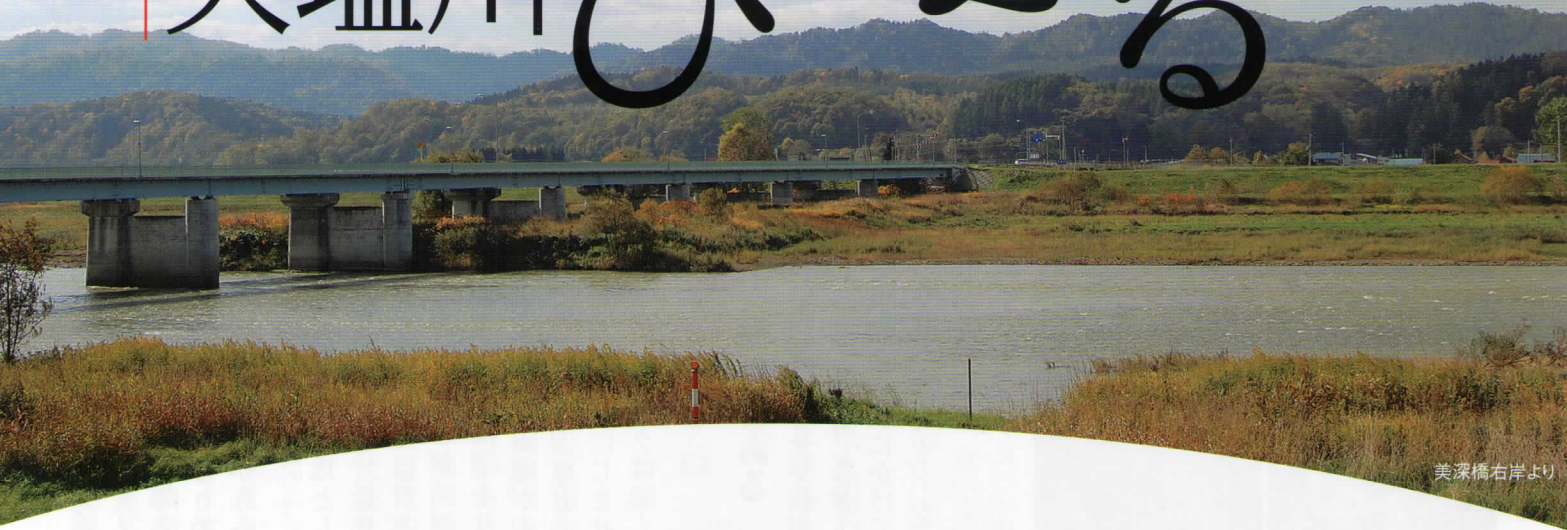


# 天塩川 ぴーふる



美深橋右岸より



【嶋崎暁啓(しまざきとしひろ)】

NPO法人サロベツエコネットワーク事務局長。1982年滝川市生まれ、神奈川県で育つ。日本大学生物資源科学部大学院修士課程終了。大学時代に里山保全のサークルで活動する一方、道東でヒグマの生態を研究。5年前、修士課程終了とともに、地元NPOに採用されサロベツ湿原にやってきた。



## サロベツ原野に夢の花ひろく——自然ガイド・嶋崎暁啓さん(豊富町)

天塩川下流域の豊富町で、若き自然ガイドに出会った

天塩川の支流、広大なサロベツ原野を流れるサロベツ川の流域に町勢を有する豊富町。コンビニの牛乳で酪農の町として「豊富」とよとみの名が知られる。町の案内によれば、その歴史は明治の北海道開拓使以来になるが、当時の人々は季節的な漁労や鉾山資源の採掘など一時的な定住だったのではなからうか。

そして明治36年、梅村庄次郎ら12戸の岐阜団体が移住民として本格的な開拓に入ってから、今につながる豊富町の歴史が始まった。

不毛の大地?に熱源を発見!

秋まつさかりの午後、名寄から約2時間半、天塩川の悠々下るさまを横目に北上する国道40号はすっかり早い紅葉を迎えていた。

大学時代、道東でヒグマ調査に明け暮れた若者は、レンジャーとして日本最北のサロベツ原野に自らの意思でやって来た。

しかし当初は「サロベツ」湿原が目的だったわけではない。母親の影響で動物好きが長じて、好きな自然との関わりを本性として望んでいたことが遠因。高

校生のころ、中国の砂漠化防止に

活動する講演を聴いて「森づくりがいいなあ」と思ったそうだ。

その彼が、家庭を持ち、そして今、必然のように地域振興の直中にいる。



「いやあり、今年の夏はエゾカンゾウが素晴らしくよく咲いたんですよ」

屈託のない笑顔で出迎えてくれた嶋崎暁啓さんは、この春開館したばかりのサロベツ湿原センターで働いている。

豊富町と幌延町にまたがるサ

ロベツ原野は、日本最北の国立公園。アイヌ語「サルオペツリアシの生える川」に由来するサロベツの地名はその名の通り、見渡すかぎりの低湿地であり、独特の植生がみられる。

「サロベツ湿原は高層湿地として学術的に価値の高いもので低地における高層湿原としては日本最大の規模です。有名な釧路湿原は広大な面積で、北海道を代表する湿原ですが、低層湿原が中心ですからね。」釧路湿原とのライバル意識(?)を少々にじませながら、彼のサロベツトックは続く。

## この湿原の第1の魅力は、花である

彼と数名の職員による写真が掲載されている「サロベツカレンダー2011」には、春から秋にかけての花々、ガンコウラン、ヤチツツジ、シヨ



ウジョウバカマ、ヒメシヤクナゲ、ワタスケ...等々が可憐に紹介されている。

「特に夏鳥が多く見られる6月から9月はバードウォッチャーの天国です。」尾瀬のような高層湿原が、ここでは平地で見られるんです。見渡す限りの大湿原、地平線を実感できる広さも魅力です。「稚内空港から離陸して見える、サロベツ川が蛇行する様子と、パンケ沼、ペンケ沼が点在する広がる湿原光景は、素晴らしいですよ。一方、ミクロで見ると、実にたくさん花々が可憐に咲いているんです。」

縄文時代に浅い海だったこの一帯が、年平均5.5℃の冷涼な気候から倒れた植物が腐りきらないまま積み重なり、次第に湿地として成長を遂げた。泥炭と呼ばれる地層で、産業資源としての利用価値があり、企業が採掘していた歴史も

ある。

湿原は、酪農の牧草地として、工業では泥炭として、観光面では国立公園という自然資源として利用されている。

## 地元人が自らの言葉でサロベツの魅力を語れるようになったら

「以前は見向きもされなかった湿原ですが、CO<sub>2</sub>を吸って炭素をためる能力があるので地球温暖化を防止できるんです。」

ふくん。とてもスケールの大きな話になっている。イメージはしづらいが、人類全体にとってもサロベツ湿原は重要なんだなあ。「住んで5年、地元の人との接点も多くなりました。湿原の面白さもどんどんわかってきましたし、人も温かく、サロベツの土地がもつと好きになりました。」



## サロベツの多様な自然環境を次代につたえる NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークの活動

### 【サロベツ湿原】

湿原の規模は6700haにも及ぶ広大なもので「利尻・礼文・サロベツ国立公園」に指定されている。2005年にはラムサール条約に登録された。独特の植生が豊富に見られることから、一部の区域は特にサロベツ原生花園と呼ばれている。100種類以上の湿原植物があり、渡り鳥の中継地点としても重要。

サロベツ及び周辺の自然と地域を愛する人々が集い、自然環境の保全活動、調査研究活動および環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与し、サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として平成16年に設立。今春より、サロベツ湿原センターの運営管理を行っている。



### 顧問

斎藤慶四郎さんのお話  
「サロベツは非常に自然環境が多様なところだということを知っていただければ嬉しいし、そのような認識の中で恵まれた財産として皆さんにこれを守ってほしい。私たちの活動の根幹には、そうした意識が強くあります。」

# 酪農とキムチのコラボでまちを楽しくしたい——酪農家・和田洋子さん(天塩町)

## 河口のまちはキムチの里でした

今では、すっかり食卓の常備品になった感のある韓国風漬物キムチ。古くから朝鮮漬として知られていましたが、私たちの日常生活に取り込まれたのはここ20年くらいです。

ところが、「キムチって、この辺じゃあ、昔から馴染みがあつて食べられてたね。朝鮮の人が居て、食べていたんじゃないかって思うけど」と天塩町の人がおっしゃる。

そしてその天塩町では、名物のミズダコを使ったタコキムチ并なる新名物も生まれたそうです。

## 地元の産品とキムチのコラボレーションで特産品作り

国道232号の海沿い、天塩川河口付近にある夕映え温泉の入り口に、そのキムチ販売所があります。

「てしおキムチ工房」、天塩町内の酪農業、和田洋子さんが代表をされています。

「キムチは今のところ6種類です。材料はできるだけ地元で生産されたものを使うようにしています。今、出している長芋は町民農園や天塩川を清流にする会などが作ってくれます。タコキムチのタ

コは、地元漁港であがつたミズダコを生で持ってきて自分で茹でます。タコキムチの味は茹で加減で決まっちゃうんですね。

キウリは、夏の間に作った自家産です。後は道内産、1月ごろ道内産が無くなったら内地の方から取り寄せますが、いづれにしても全て国産の材料を使っています。

キムチは基本の6種類に、旬のものを何種類かずつ作ります。春には遠別産のアスパラでアスパラキムチを作ります。ギョウジャニンニク、ウドなど自然のものを採りに行きます。これに旬のものとしてヤークンを作りたいなと思っています。

(地元チーズ工房の)天塩チーズを利用してチーズキムチも何回かは作っています。すごくワインに合います。」と、今春のインタビューで語っていたりした。

## 進化する酪農家のお母さん

11月初旬、札幌で行われた展示商談会にて偶然、天塩チーズキムチを発見、その味を試してみることができました。

和田さんいわく「本業は酪農家なので、朝晩搾乳して牧草収穫の時期は機械操作からすべての作業をするので、キムチ作りも並行して行うのはちょっと大変ですが、

幸い起業した当初から一緒にキムチを作ってくれている高橋さんがいてくれて心強いです。

キムチ作りの目的は町の特産品づくりです。天塩町の活性化に自分ができる範囲でがんばりたいと思っています。」

酪農お母さんのチャレンジは、まだまだ続くようです。

和田さんは、3代続く酪農家の和田牧場に嫁いで43年経った。乳牛70頭を飼育しながら、酪農実習の体験牧場もしている。後継者がいないので、町が募集する新規就農者に牧場の未来を託そうとしている。



- てしおキムチ工房の手作りキムチ
- 白菜キムチ (250g) 350円
  - ながいもキムチ (250g) 350円
  - きゅうりキムチ (250g) 350円
  - 大根キムチ (250g) 350円
  - セロリキムチ (200g) 350円
  - タコキムチ (200g) 350円



チーズ作りに取り組む天塩町、遠別町、幌延町の酪農家のサークル「美留来のゆめ」のみなさん。今年から会長になった和田さんは、その中心になって「酪農から派生する様々な楽しみを知ってもらおう活動」に力が入る。



# 「天塩川ものがたり」は かがが?

毎週水曜日、午前11時から11時30分まで「天塩川ものがたり」を放送しています。この番組は天塩川流域の地域の歴史や特色、がんばっている人を紹介する番組です。再放送は翌日木曜日の午後6時30分からです。

ここで音声を楽しめます。→ [www.nayoro.fm/teshiogawa/](http://www.nayoro.fm/teshiogawa/)

## 下流域～中流域 編

### 中頓別町

#### チーズ作り

お話：高橋牧場チーズ工房 高橋憲一さん  
 平成23年10月5日放送分

中頓別産の牛乳を使い、独自のこだわりでチーズを作り、地元の魅力を食で伝えようとレストランも経営されている高橋牧場チーズ工房の高橋憲一さんにお話を伺いました。ドライブインとして長年愛されてきた店舗を譲り受けて、カフェにして開店したという店内は、どこかレトロな雰囲気のあるなか、かわいらしい雑貨や懐かしいレコードが並び、幼いころからチーズが生活の中に常にあったという高橋さん(写真左)。牧場で働いていた頃の話から、チーズづくりまで語る姿は、落ち着いていながらどこか内に秘めるパワーのようなものを感じました。



★高橋牧場チーズ工房  
 問合せ電話01634-6-1598

### 幌延町

#### 幻のブルーポピー「青いケシ」

お話：幌延町職員 伊山英貴さん  
 平成23年8月17日放送分

6～7月に開花する幻のブルーポピー「青いケシ」について教えていただくこと、トナカイ観光牧場に隣接するノースガーデンを訪れました。幌延町の冷涼な気候を生かして栽培されている青いケシですが、温かい時期の澄み切った海のような鮮やかな色で、3000株が植えられています。栽培が難しいとされる青いケシに情熱を注ぐ町の方々に、花の魅力や栽培の難しさ、幌延の魅力などを教えていただきました。作業服で汗を流す伊山さん(写真左)。人間の女の人にも角があるように、トナカイにも男女関係なく角があるとおっしゃっていました(笑)。



★トナカイ観光牧場「ノースガーデン」  
 営業時間：11～3月/午前9時～午後4時、  
 入場料：無料、問合せ電話01632-5-2050

### 中川町

#### エコミュージアムセンター

お話：中川町学芸員 疋田吉織さん  
 平成23年8月3日放送分

中川町エコミュージアムセンターは、2002年にかけて中学校だった校舎を改装してオープンされました。体育館だったところに、国内最大のクビナガリュウや、これまでに見つかったアンモナイトをはじめとした様々な化石が展示されています。自然誌博物館の中にお邪魔し、お話をきいているうちに、一気にその雰囲気呑み込まれてしまい、大昔の時代からのメッセージに耳を傾けました(写真、疋田さん)。



★中川町エコミュージアムセンター  
 開館時間：午前9時30分～午後4時30分、  
 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は火曜日)、  
 及び年末年始、観覧料：高校：一般200円、  
 問合せ電話01656-8-5133

### 音威子府村

#### おといねっぴ美術工芸高校学園祭

お話：北海道おといねっぴ美術工芸高等学校教頭 高橋雅彦さん  
 平成23年7月27日放送分

7月23日～24日にかけて行われた学園祭を訪れました。村民の温かい心の交流や美しい自然を生かした行事、部活など、生徒たちは音威子府だからこそ可能な「おと高ライフ」をエンジョイし、作品制作などに打ち込んでいました。また、村外からの生徒が多いことから、毎年学園祭となると、ご家族の方々がおと高を訪れ、学園祭で出店したり、作品を見たり買ったりし、久しぶりの子どもたちとのふれあいの場ともなっていたようです。



お話を伺った高橋教頭先生(写真中央)、ありがとうございました!

★北海道おといねっぴ美術工芸高等学校  
 問合せ電話01656-5-3044

### 美深町

#### トロッコ王国と松山湿原・仁宇布の冷水

お話：NPO法人トロッコ王国美深運行部長 岩崎寿好さんと  
 美深町観光協会事務局次長 小栗卓さん平成23年7月6日放送分

今回の天塩川ものがたりは、美深町にお邪魔しました。夏の楽しみがいくつかある中でも、今回はかつて旧国鉄で美幸線として使われた本物のレールの上を行く「走る森林浴」トロッコ王国と、日本の重要湿地500のひとつである高層湿原の松山湿原、そして平成20年6月に「平成の名水100選」に選ばれた仁宇布の冷水・十六瀧についてお話を伺いました。時速30キロも出るトロッコでの旅は、さわやかな緑にあふれ、香りや風を体で感じる事ができ、感動でした(写真右、岩崎さん)。



★トロッコ王国美深  
 冬期休業(来期は4月下旬より営業)、  
 問合せ電話01656-2-1065

### 平日の情報ライブ番組

#### 7:00～「おはようてっし」～10:00

天気・交通情報/JR名寄駅～いってらっしゃい/てっしインフォメーション/名寄市からのお知らせ/イオン情報/名寄振興公社情報/てっしネットワークチャンネル/名寄新聞/北都新聞ニュース/北海道新聞ニュース/西條情報/給食献立/モーニングブレイク/12星座占いランキング

#### 12:00～「お昼の公園通り」～14:00

天気・交通情報/名寄新聞/北都新聞ニュース/名寄市からのお知らせ/新着図書情報・もう一品いかが?・ちょっとおいしい話・ミニポップチャート/北海道新聞ニュース/天気・交通情報

#### 16:00～「てっしジャーナル」～18:15

天気・交通情報/JR情報/北海道新聞ニュース/旭川地方気象台/名寄警察署パトロールメモ/週末観光情報/交通安全メモ/お梅やみ情報/名寄市から/名寄振興公社情報/名寄新聞/北都新聞ニュース

#### 12月10日は人権デーです。

Airてっしは、名寄人権擁護委員協議会と協力して  
 (みんなの人権110番 0570-003-110)  
 啓発活動に参加しています。